



TITLE:

ヨーロッパ中世詩歌「カルミナ・
ブラーナ」をめぐる人文地理学的
考察：現代合唱曲としての復活：人
文地理学会2012年大会発表論題・
配布資料

AUTHOR(S):

川西, 孝男

CITATION:

川西, 孝男. ヨーロッパ中世詩歌「カルミナ・ブラーナ」をめぐる人文
地理学的考察：現代合唱曲としての復活：人文地理学会2012年大会発
表論題・配布資料. 2012

ISSUE DATE:

2012-11-18

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161907>

RIGHT:

This is not the published version. Please cite only the published
version.; この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版を
ご確認ご利用ください。

402 ヨーロッパ中世詩歌「カルミナ・ブラーナ」をめぐる 人文地理学的考察 —現代合唱曲としての復活—

Study of the European Medieval Poetry "Carmina Burana" using Human Geographic Approach

—the Revival as New Modern Great Cantata—

川西孝男（ドイツ・オーバーフランケン歴史協会員，京都大学・院研究生）

KAWANISHI Takao (Historischer Verein für Oberfranken e. V. in Deutschland,
Graduate Researcher of Kyoto University)

キーワード：C.オルフ「カルミナ・ブラーナ」，中世詩歌カルミナ・ブラーナ，ベネディクトバイエルン修道院，アンデクス修道院，アンデクス・メラン家，12世紀ルネサンス，文化融合，音楽芸術と人文地理学

Keywords：Carmina Burana, Carl Orff, Kloster Benediktbeuern, Kloster Andechs, Haus Andechs Meran, Renaissance of 12th Century, Acculturation, Music Art and Human Geography

中世詩歌集カルミナ・ブラーナと現代合唱曲「カルミナ・ブラーナ」をめぐる人文地理学的アプローチ

20世紀前半にドイツのC.オルフ Carl Orff(1895-1982)によって作曲された「カルミナ・ブラーナ Carmina Burana」(1937年6月フランクフルト初演)は，その詩歌の普遍的性格や楽曲の斬新さによって当初から支持を得るなど，現在，世界各国のコンサートホールで上演される合唱曲（カンタータ）として知られている。大編成オーケストラと多数の打楽器によって音楽は原色の色彩を放ち，さらに児童，成年混声合唱団や男女ソリストがヨーロッパ中世の詩歌を当時のラテン語などの古語のまま様々なテンポで詠うなど，時代や国境を越えて人生の喜怒哀楽を謳歌した現代合唱曲の代表作の一つとしてヨーロッパのみならず，中東アジアそして日本でもその人気は高い。

一方で，この合唱曲の原典となった12世紀ルネサンス期に編纂された中世詩歌集カルミナ・ブラーナについてはほとんど知られていない。また，この詩歌を用いて「カルミナ・ブラーナ」を作曲したC.オルフに関しても彼の音楽・声楽学理論あるいは音楽教育論を中心に研究が進められ，彼の「カルミナ・ブラーナ」に自由でヒューマニスティックなイメージが定着したため，12世紀と20世紀の両作品の関連に踏み込んだ研究は行われて来なかった。

本論は人文地理学のアプローチを用い，原典の詩歌について個別に検証し，この12世紀の詩歌集カルミナ・ブラーナの全体像とその編纂のコンセプトを明らかにする。次に，詩歌集成立の背景を考察し，カルミナ・ブラーナが何ゆえ南ドイツのベネディクトバイエルン修道院で編纂されたかについて言及する。さらにこの詩歌集と“遭遇した”C.オルフが生涯にかけて取り組んだ“カルミナ・ブラーナの復活”について考察する。彼がこの中世ヨーロッパの詩歌集に何を掘んだのか，そして「カルミナ・ブラーナ」において何を現代に復活させようとしたのかに及びたい。

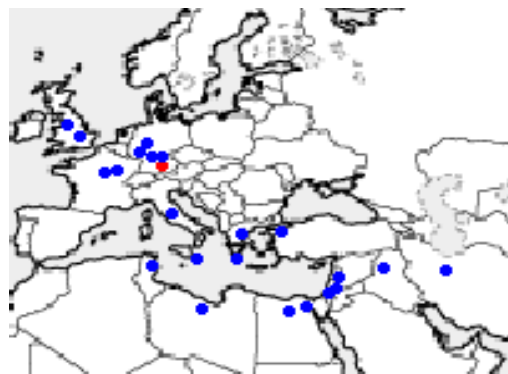


図1 カルミナ・ブラーナ主要言及地（筆者作成）

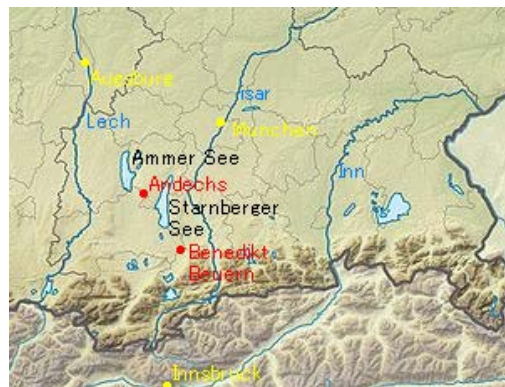


図2 カルミナ・ブラーナ編纂関係地（ドイツ南部，同）

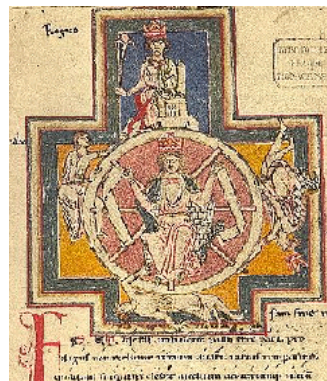


図3 Codex Buranus-1



図 4 Carl Orff



図 5 Andechs-Meran



図 6 Codex Buranus-2



図 7 Codex Buranus-3



図 8 Codex Buranus-4



図 9 Graf Otto von Botenlauben



図 10 Kloster Benediktbeuern (筆者撮影)



図 11 Kloster Andechs (同)

参考文献

- Hackemann, M., *Carmina Burana*, 2006
 Gersdorf, L., *Carl Orff*, 2002
 Mindera, K., *Benediktbeuren: Kulturland und Kirchen. Große Kunstführer*, 1965
 Bayerische Staatskanzlei (Hrsg), *Herzöge und Heilige. Das Geschlecht der Andechs-Meranier im europäischen Hochmittelalter*, 1993
 Hormayr, J., *Versuch Einer Pragmatischen Geschichte Der Grafen Von Andechs*, 2012
 Hennig, L., *Die Andechs-Meranier in Franken. Europäisches Fürstentum im Hochmittelalter*, Zabern, 1998
 Müssel, K., *Bayreuth in acht Jahrhunderten: Geschichte der Stadt*, Bindlach, 1993
 (助言/史料提供: Kloster Benediktbeuern, Kloster Andechs, Historischer Verein für Oberfranken e. V. Deutschland)